

水のふるさと 横浜市の水源地



鮑子取水げき

相模ダム

沼本ダム

城山ダム



水源系統図

- 各水源の主な給水区域
- 主に道志川系統の水
 - 主に相模湖系統の水
 - 主に馬入川系統の水
 - 企業団酒匂川系統の水
 - 企業団相模川系統の水
- 横浜市水道局の浄水場
 - 企業団の浄水場(※)
 - 配水池
 - 企業団調整池
 - ダム・取水施設
 - ポンプ場

(※) 伊勢原・相模原・西長沢・綾瀬の4つの浄水場は神奈川県内広域水道企業団の浄水場です。ここでつくられた水道水は、横浜市や川崎市などへ供給されます。

横浜市が保有している水源は、**道志川系統、相模湖系統、馬入川系統、企業団酒匂川系統、企業団相模川系統**の5系統で、1日当たり合わせて**1,955,700 m³**になります。

道志川系統 172,800 m³/日

相模川の上流にある道志川の河川水を水源としています。鮑子取水げきで取水し、青山沈でん池を経て、自然流下で川井浄水場へ送られています。

相模湖系統 394,000 m³/日

相模川の上流にある相模湖(相模ダム)の水を水源としています。相模湖の約4km下流にある沼本ダムで取水し、津久井分水池、下九沢分水池、相模原沈でん池および川井接合井を経て、自然流下で西谷浄水場へ送られています。

馬入川系統 284,700 m³/日

相模川の上流にある津久井湖(城山ダム)の水を水源としています。津久井湖の約32km下流にある寒川取水げきで取水し、ポンプを使って小雀浄水場へ送られています。

企業団酒匂川系統 605,200 m³/日

酒匂川の上流にある丹沢湖(三保ダム)の水を水源としています。丹沢湖の約28km下流にある飯泉取水げきで取水し、神奈川県内広域水道企業団の相模原・西長沢の浄水場へ送られています。

企業団相模川系統 499,000 m³/日

相模川の支流である中津川上流の宮ヶ瀬湖(宮ヶ瀬ダム)の水を水源としています。宮ヶ瀬湖の約23km下流にある相模大げきとその下流にある寒川取水げきで取水し、神奈川県内広域水道企業団の綾瀬・相模原浄水場と小雀浄水場へ送られています。

神奈川県内広域水道企業団

神奈川県、横浜市、川崎市、横須賀市の4団体は、水道施設の重複投資を避けるとともに、施設の効率的な配置や管理などを目的として、昭和44年5月に、神奈川県内広域水道企業団(以下、企業団)を設立しました。企業団は、河川から取水した原水を浄水処理して4団体に供給する一部事務組合です。現在、企業団の供給量は4団体の総給水量の約50%を占める状況にあり、4団体を通じて県民の生活基盤を支えています。

酒匂川総合開発事業(創設事業)

酒匂川上流に建設した三保ダムにより1日最大1,564,300m³(そのうち横浜市分は605,200m³)の取水を可能とする水源を確保。飯泉取水げき、伊勢原浄水場、相模原浄水場、西長沢浄水場などの建設を行い、昭和54年4月から全量給水を開始。

相模川水系建設事業

国土交通省が建設した宮ヶ瀬ダムにより1日最大1,300,000m³(そのうち横浜市分は499,000m³)の取水を可能とする水源を確保。相模大げき、綾瀬浄水場などの建設を行い、平成18年4月から全量給水を開始。